

## 第 39 回経済学会賞（本行賞）審査講評

第 39 回経済学会賞には 9 本の論文の応募があり，いずれも応募者の学習と研究の成果を示す良作であった．審査委員会は，厳正なる審査の結果，優れた論文として，以下の優秀作 1 本及び佳作 3 本を選出した．

### 優秀作 1 編

長島 稜剣（経済学部 4 年）

“Nash Implementation of Weakly Stable Correspondence with Distributional Constraints”

### 佳作 3 編

足立 佑太（経済学部 4 年）

「緊急事態宣言の発令は交通量以上に交通事故を減らす」

平野 飛鳥（経済学部 4 年）

“Compatibility between Incentives and Efficiency in the Probabilistic Assignment Problem on the Full Preference Domain”

堀内 萌音（経済学部 4 年）

「プラスチック資源循環に向けた拡大生産者責任制度の再考と廃棄物産業連関分析」

以下，受賞論文にたいしての講評を記す．

優秀作に選ばれた長島氏の論文は，配分に制約のある多対一マッチングのナッシュ遂行可能性に関する理論研究である．研修医配属や学校選択のような二部マッチング問題では，地域定員のような配分上の様々な制約がある場合がある．本論文は，そのような環境で片側（研修医）のみが戦略的に振舞うときの，弱安定マッチングのナッシュ遂行可能性について分析した．病院側の総定員に対し，医者の数が十分に多いか又は逆に十分に少ないとき，弱安定マッチングはナッシュ遂行可能であることを示した．そして，医者の数が中間的な場合には弱安定マッチングをナッシュ遂行できない例があることを示した．ナッシュ遂行可能性がプレーヤー数に対して非単調的であるという結果は理論的に興味深く，結果についての平易な直観が説明できるとさらによいだろう．本論文は，更なるブラッシュアップとプロの英文校正を受ければ国際ジャーナルに投稿することが可能なレベルの内容であり，経済理論を専門とする審査委員をはじめとして

高い評価が得られた。

佳作に選ばれた足立氏の論文は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って発令された緊急事態宣言によって、10 都道府県の交通状況がどのように変化したかを明らかにする実証研究である。ニュースなどでは緊急事態宣言自体の効果が疑問視される中、データに基づく実証分析が求められており、時宜にかなうテーマといえる。本論文では、交通量や交通事故数の分析のために、天候や週末要因なども含めて注意深く回帰モデルが設定され、また理論モデルを考慮している点が特徴的だった。分析の結果、緊急事態宣言の発令は交通量以上に交通事故数を減少させる効果があることが推計された。「交通事故が交通量以上に減少する」ということは興味深いが、理論的にどのような条件の下、このような変化が起こり得るか命題として示せるとさらによいだろう。

佳作に選ばれた平野氏の論文は、異質財を複数人に割り当てる片側マッチング問題に関する理論研究である。個人の財に対する選好が強選好に限定される環境において、random priority (RP) メカニズムが強いインセンティブ条件と事後の効率性を満たすことが知られている。本論文は、RP メカニズムを個人の選好が無差別を含む一般的な環境に拡張した「ERP メカニズム」を提案し、インセンティブ条件と事後の効率性を満たすことを示した。既存理論を堅実に拡張した良作だが、全体的な英語表現や各種概念の説明の仕方については改善の余地がある。また具体例を用いて ERP のアルゴリズムを説明したり他のメカニズムと比較したりすると、貢献をより明瞭に伝えることができるだろう。

佳作に選ばれた堀内氏の論文は、廃棄物産業連関表にプラスチック廃棄物のより詳しい区分を増設反映させた産業連関分析である。近年、マイクロプラスチック汚染問題やレジ袋有料化などプラスチック依存からの脱却は待ったなしの社会情勢となっている。本論文では、4つのシナリオ分析により、①プラスチック廃棄物の分別回収やリサイクル率の向上が進んでも、経済波及効果にはそれほど負の影響を与えないが、二酸化炭素排出量削減には貢献しないこと、②プラスチック廃棄物そのものを減少させたシナリオでは二酸化炭素排出量は減少するものの、経済にも大きな負のインパクトを与えてしまうことを明らかにしている。あわせて、EU 諸国での拡大生産者責任制度の実施内容などについて、日本との比較調査も行っており、制限字数目一杯まで活用した優れた労作でもある。今後、いわゆる 3R 行動が二酸化炭素排出量だけでなく、プラスチック汚染度等へどのような影響があるかなど検討対象の幅が広がることが期待される。

最後に、今回の応募作はいずれも水準が高かったが、一読しただけでは研究成果が分かりにくいものが多かったような印象を受けた。応募作全般の内容がよかっただけに審査委員会ではこの点が気になった。本経済学会賞では理論・実証・歴史・国際比較という幅広い分野の研究を4名の審査員で審査しており、分厚い専門家集団が査読を行う専門学術誌とはやや性格を異にしている。課題の設定と研究結果及び先行研究からどのように研究を発展させたのか、について一目瞭然の図表が付せられていれば、審査委員会により効果的にアピールできただろう。この点は、研究者としての就職活動や研究費の獲得において重要となってくる所でもあり、今後の改善に期待したい。

2022年3月2日

第39回経済学会賞（本行賞）審査委員会

審査委員長：邊英治

審査委員：伊集守直，佐野隆司，古川知志雄

## 第 39 回経済学会賞(本行賞)受賞者メッセージ

### 長島 稜剣

3 年生の 11 月にゼミを移動してから卒業に至るまでの間、手厚い指導をしてくださった熊野先生に感謝しています。

### 足立 佑太

この度は本行賞という名誉ある賞にて拙筆を表彰していただき、大変光栄に思います。

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、ゼミナールは全面オンラインに移行し、研究では街頭アンケートを断念するなど、困難の少なくない研究活動でした。それでもなんとか研究を論文にまとめ上げ、このような形で評価していただけたことはこの上ない喜びであります。

末筆ながら、論文執筆の最後まで丁寧に指導してくださった大森義明先生、論文にたくさんのお意見をくれたゼミナールのみなさんには大変感謝しております。一人では決して成し遂げられるものではなかったと痛感しています。

### 平野飛鳥

今回は本行賞を受賞することができ、大変嬉しく、光栄に思います。膨大な時間を費やし手厚くご指導いただいた熊野先生に感謝申し上げます。私は横浜国立大学に入学する前は研究者の道など考えたこともありませんでした。しかし、色々な先生方の授業を受けているなかで、ミクロ経済学に興味を持ち、やがては研究者を志すようになりました。その第一歩となるこの論文でこのような賞をいただくことができ感慨無量です。この賞に恥じぬよう今後とも精進し、さらなる飛躍を目指したいと思います。

### 堀内 萌音

この度は本行賞佳作に選出していただき、ありがとうございます。

本研究は、世界的課題となっているプラスチック問題への解決策として拡大生産者責任制度を組み込んだプラスチック資源循環を提示するとともに、こうした資源循環の達成がもたらす環境・経済的波及効果を廃棄物産業連関表の利用により分析・評価したものになります。

プラスチック問題に関しては、高校生の頃から興味を持っておりました。そのため、プラスチック問題をテーマとした論文を完成させ、評価していただけたことを大変嬉しく思います。

2 年間ご指導してくださった居城教授をはじめ、本研究にご教授・ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。